



寺屋敷前田左京請取居住也。と見ゆ。加藤惟寅の蘭山私記に云ふ。浅野川河縁前田左京屋敷は、往昔瀧谷の末寺蓮心寺と云ふ寺地なり。日泰上人より四代前の住持と、蓮心寺と公事をして、瀧谷の上人も蓮心寺も追放せられ、寺破却、寺地を削らる。夫までは瀧谷上人金澤へ被出時は、蓮心寺を旅宿とす。其以後日泰上人の先住職日義の時、小立野經王寺を妙成寺の止宿所となしたり。前田左京は兵部の元祖にて、明治廢藩の際迄此の地に代々居住せり。

○並木町

龜尾記に、並木町と唱ふるは、川除に松ある故乎。といへり。或は云ふ。犀川・浅野川の兩河縁共に、昔は往還の並松の如く松樹を植ゑたり。是は水害防禦の爲に、利常卿の時植ゑしめられしにや。皆老樹なりしが、或は風難の爲に倒れ、或は水害の爲に伐取られ、今兩河縁に僅に残れりと。按ずるに、上代より堤防の爲に樹木を植ゑしめける事は、既に古今古式に載せられたり。營繕令に云ふ。凡堤内外并堤上。多植榆柳雜樹。宛堤堰用。と見ゆ、延喜彈正式に、凡神泉苑廻地十町内。令京職栽柳。とありて、太平記にも、

神泉苑は大内始て成りし時、周文王の靈囿に擬し、方八町に作られたりし園囿是なり。洛中に仰せて、神泉苑の廻りに柳を植ゑられしとなりと。されば吾が金澤なる犀川・浅野川の兩河縁に、そのかみ松樹を植ゑしめらるゝものも、若しくは彼の神泉苑の柳などにならうて植ゑしめられしにや。今追々絶えて、並木町の町名のみ残れり。

○守長山靜明寺

法華宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開基、越中高岡本陽寺代々内、靜明院日衛と申僧は、瑞龍院殿・玉泉院殿御懇意に被成、御息女蓮成院檀那に被遊。此由來に依て、金澤に於て寺屋敷拜領、慶長十七年日衛建立仕。と記載し、所付を金澤八坂とあり。三箇屋版六用集にも、靜明寺八坂と見ゆ、延寶の金澤圖等を見るに、八坂松山寺と鶴林寺との間に靜明寺を記載す。後八坂より今の地へ移轉す。按ずるに、右由來書に載せたる御息女蓮成院云々とする息女といふは、前田家略譜に、利長卿御息女滿姫。慶長十六年二月廿一日早世。法名蓮成院妙侃大姉。葬于高岡本陽寺。とありて、利長卿の實子は此の滿姫のみなりといへり。青地

禮幹撰の本藩略譜等には記載せず。

○勸進橋

改作所舊記に、元祿十二年十二月廿三日、茶麿山續觀音院出崎之後、山崩れ、浅野川つきうめ、川除町家鐵炮屋紺屋かどより、下くわんじん橋拾間程大平に成る。とあり。此の橋は浅野川に架けたる一文橋にて、今いふ靜明寺河原なる一文橋なるべし。年譜に、寶曆十年正月茶臼山假橋之上の山破目出來鳴動す。とある假橋も、同地の一文橋の事ならんか。おもふに元祿の比は、一文橋をば勸進橋とも呼びたるにや。

○兒玉小路

稻荷社の上より材木町へ出づる小路をいへり。兒玉氏とて藩士の居第あるを以て呼べりと、龜尾記にいへり。明治四年戶籍編成に付き町名取調の時、小路の名目は多分廢すといへども、此の兒玉小路は今も一町の名目とす。

○兒玉彌藤次傳

兒玉彌藤次は、參議中將綱紀卿の時奉仕せし、掃除坊主兒玉正齋と云ふ者の次男にて、兒玉順悦と稱し、參議吉徳卿